

訪問看護主任研修 part4

2021/4/10

テーマは「コロナ渦で地域へ訪問看護事業所が発信すべきことを考える」

発端は、訪問先で一緒になるヘルパーさんの感染対策への不安からです。地域包括ケアの中で、感染対策について訪問看護師がどのような役割を果たしていくかを考えました。

事前レポートでは、訪問介護ステーションへインタビュー

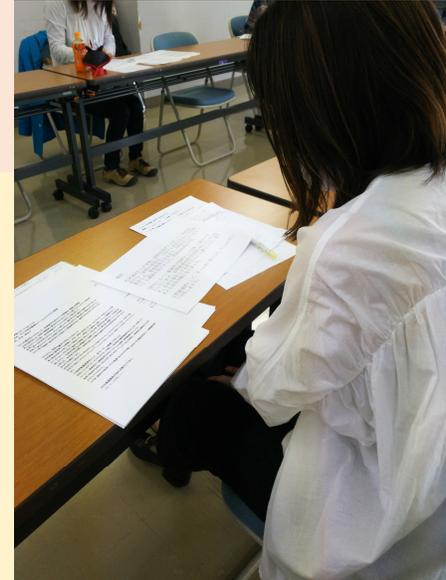
感染対策の事業所の対応

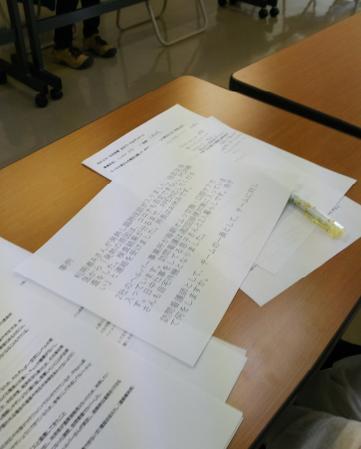
感染対策で不安なこと

感染対策対応で、訪問看護師と一緒に訪問してお役にたてたこと

感染対策対応で、訪問看護師に期待すること要望

- ・訪問介護は直行直帰のスタッフが多いため対策の統一が難しい。
 - ・感染対策の必要物品を支給していない事業所がある。
 - ・感染対策文書は専門用語が多く難しい。
 - ・スタンダードプリコーションの必要性や手技を学習する機会がない。
- などの課題がわかりました。





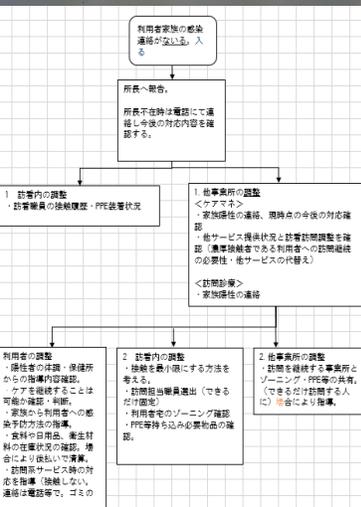
① 所長に一覧 訪問者の氏名、住所、所属
 ② 訪問者のスタッフのPPE確認
 ③ CM連絡 訪問者と連絡がとれない場合
 ④ 訪問者のPCR結果の通知
 ⑤ 息子の連絡
 ⑥ 往診にTEL
 PCR結果の通知
 本人、息子の受診の時に連絡の確保

コロナの感染事例をもとに、訪問看護にできる事を話し合いました。

濃厚接触者の訪問の調整、他事業所と対策を統一することなど実践を踏まえた手順を考えます。

実際には感染事例と、職員の急な休みが重なったときなど「何からやればいいのか慌ててしまった」という意見から、グループワークの結果をフローとして見える化しました。

サービスを制限されてしまう利用者・家族の生活保障の視点も大切です。



窓の外はすばらしい晴天。
 研修は午前中で終了。おしゃべりしながらラン
 チ...とはいかないので早く帰ります！

